



2018年7月2日 「奥浅草だより」第6号

江戸芸能の粋を集める「みちびきまつり」

みちびき地蔵 言問通り・奥浅草の入口にあるのが「^{みちびきちょうたろう}道引長太郎地蔵尊^{いぬくぼう}」。犬公方と言われた徳川綱吉の時代に始まり、元禄時代には浅草寺馬場の隅にあったということ。この地蔵のお祭りが「みちびきまつり」です。その割には新しいお祭りで、2002年から毎年、盛夏に行われています。2018年は第17回目で、7月16日の海の日に13時から行われます。

会場は^{あさくさけんぱん}浅草見番です。入場は無料です。

浅草見番 言問通りの奥浅草停留所の近く、柳通りを入ったところに浅草見番があります。このあたりはかつて、三業地と言われ、料亭・待合・芸者置屋がそろい、「見番」とはこれらを仲介するところでした。芸者の出入りを預かる事務所です。この浅草の花街には、昭和初期に1,500人の芸者がいたそうですが、現在は男芸者5人と女芸者25人のみだそうです。男芸者は^{ほうかん}幫間とも呼び、浅草の逸材です。この傾向は料亭や小料理屋も減り続き、見番は貸席業を拡充しています。同時に、芸者の芸の中心である江戸芸能の涵養に力を入れています。

まつりのプログラム 屋内のプログラムは多彩で、コーラス、民話語り、和太鼓、幫間のほか、鼓楽庵の望月太左衛率いる箏・三味線・尺八など。ハイライトは、浅草芸妓による浅草太鼓と踊りです。これまでも、毎年、江戸芸能の伝承に加えて現代芸能とのコラボなど、野心的な展開もしてきました。後援はみちびき花の辻商店街振興組合です。

みちびきまつりのプランナーは、伝統芸能教場・鼓楽庵の代表・望月太左衛です。彼女は12代目家元・望月太左衛門の娘でありながら女性は家元を継げず、東京芸術大学(博士)を修了する傍ら、望月太左衛を名乗って活躍しています。

~~~~~  
この「奥浅草だより」は、『奥浅草 地図から消えた吉原と山谷』の制作でとくにお世話になった方々に不定期にお送りしております。他にご関心のある方にもお送りしますのでお知らせ下さい。

著者・佐野陽子＝江原晴郎、編集・森下恒子 [info@sanox.co.jp](mailto:info@sanox.co.jp)

